

薬系技官の1日の過ごし方

LIFE STYLE

薬系技官は普段どのように過ごしているのか、日常のとある1日を追ってみました。



大井 恒宏
OI Tsunehiro

医薬局 総務課
薬局地域機能推進企画官

平成17年 入省
平成30年 WHO (行政官短期在外研究員制度)
平成30年 保険局医療課 課長補佐
令和2年 大臣官房厚生科学課 医薬品等行政評価・監視委員会 室長補佐
令和3年 厚生労働省医薬・生活衛生局 化学物質安全対策室 室長補佐
令和4年 在ウィーン国際機関日本政府代表部 一等書記官
令和7年 現職

高齢化で医療ニーズが増す中、地域の薬局や薬剤師が在宅医療やプライマリケアで役割を發揮できるよう制度整備を進めています。併せて局内のDX推進やオフィス改善にも携わり、さらに併任先では新法提出に向けた作業も担当しています。

9:30 **自転車で風を切りながら、霞ヶ関へ**
環境にも健康にも優しい通勤スタイル。到着後はエレベーターではなく階段で執務室へ。朝一番にチームの進捗を確認し、一日のタスクと動きを頭の中で整理します。

12:00 **未来の薬局像を議論する**
課内の打合せでは、薬機法改正に伴う施行準備や、薬局を取り巻く課題への対応策を検討。現場の声をどう制度に落とし込むか、限られたリソースで解決策を描いていきます。

13:00 **昼休みに次の楽しみを仕込む**
デスクで軽く昼食をとりながら、旅先の候補を検索するのが密かな楽しみ。海外での経験や異文化との出会いは、仕事に向き合う視野を広げるきっかけになっています。

15:00 **よい政策は、よい職場から生まれる**
業務改善チームとして、オフィス環境の改善に向けた議論を継続。省内コンペで入賞した提案の実装を進め、「小さな改善と成功体験が組織を変える」を合言葉に取り組んでいます。

18:00 **プライベートの時間が仕事の幅を広げる**
月1回の「強制定時退庁日」は、心と頭をリセットする大切な時間。サウナで整えたり、アニソンバーで外国人と交流したり。仕事への発想は、意外とオフの時間に芽生えます。



安齋 真弥
ANZAI Maya

大臣官房国際課 主査

令和5年 入省
令和5年 医薬局監視指導・麻薬対策課 係員
令和7年 現職

経済連携協定(EPA等)や世界貿易機関(WTO)について、厚生労働省の窓口として業務に取り組むだけでなく、会議対応もしています。時差のため早朝からオンラインで会議を行うこともありますが、その際は早出勤やテレワークを活用すれば無理なく対応できます。今回はそんな1日を紹介します。

8:00 今日ではテレワークです。自宅でパソコンを立ち上げ、会議に参加します。始まる前に、会議の議題や資料を最終チェックしています。

10:00 EPAにおける厚生労働省の観点の1つに、貿易の技術的障害(TBT)というのがあります。今回は、経済連携協定の1つであるCPTPPの加盟国でTBTに関する知見や課題感を共有する会議に参加します。会合の様子として、タイで人口動態の変化と仕事の未来についての地域会合に参加した時に撮った写真(別日)をご紹介します。

12:00 会議が終わったら、概要をメモしておきます。厚生労働省が関係しそうな話があれば、速報として省内の関係部署へ連絡することもあります。私の係には外務省等の省外組織と省内各局を繋ぐ役割があるので、できるだけ担当者の作業時間を確保できるよう優先順位をつけて対応していきます。

13:00 テレワークをする時は、いつもよりランチに悩みます。厚生労働省には食堂がある他、お弁当を執務室のある階まで売りに来てくれるので出勤した日はご飯に困りません。

15:00 午後はEPAの交渉会合に参加します。締結済みのEPAに基づく会議だけではなく、これから締結されるEPAの会合、つまり今現在交渉が行われている場にも参加できるのは、この係の醍醐味です。

18:00 仕事終わりは自分の好きなことをして過ごします。こちらは係の人とご飯を食べた時の写真です。行法経(系)・獣医系・出向者・そして薬系。異なるバックグラウンドの人と同じ話題で笑い合える今を大切にしています。

キャリアパス

CAREER PATH

薬系技官は、幅広い経験を積みながら業務の中核を担う専門性とマネジメントスキルの持ったキャリアを築く環境が用意されています。

薬系技官として採用されると、おおむね2年ごとに部署を異動します*。
異動を繰り返しながら、様々な業務を経験してキャリアを積んでいきます。異動の頻度は多いですが、前任者からの業務の引き継ぎや、職場の上司や同僚のサポートもありますので、安心して仕事を進めることができます。

*部署によっていろいろなケースがあります

